

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/6/23 実施)～

参加者:7名



ムラサキエノコロ?

マコモの花がめだつようになった。ミクリは花と実。ネズミモチの木も花をつけている。コヒルガオ、ムラサキツメクサ、ドクダミ、オニタビラコ、ヒメジョオン、ヨウシュヤマゴボウ、イヌガラシ、ハキダメギクそしてハンゲショウの白い葉もよくめだつ。ソクズも白い花をつけた。先月のヒエガエリの穂はすでに茶色になっている。コウガイゼキショウの目立たない花を虫メガネでよくみると白いブラシと黄色いオシベが観察できた。

空もあたりの空気も薄グレー色にしっぽりつつまれている。天気予報は午後から雨だと告げている。森からはウグイスのさえずりが聞こえる。

夏に向かってしっかりと伸びている緑のなかに、ザリガニ釣りの家族がたくさん集まっているようだ。

エノコログサ、緑色の穂に交じって一

株、ムラサキがかったものが目につく。葉にも紫色が混じっている。これはムラサキエノコロなのか。



ハグロトンボを捕まえて観察



脚のギザギザは何のため?

藪のなかでは今年もハグロトンボが沢山舞っている。ミゾソバ、ヤブミョウガ、イノコヅチ、カラスウリなどの葉が生い茂るなかをすすんでいくと、すでに小さな花をつけているミゾソバをみつけた。コナラの幹にヒメジャノメか?茶色のチョウチョが沢山とまっていた。

幹からは樹液が出ているのだろう。そばにはヨコヅナサシガメもいた。

生い茂る草の間にナガコガネグモが巣をかけている。まだ体のちいさいものが多いが、カクレオビをちゃんと準備している。ショウリョウバッタ、カマキリなど虫たちも小さいものが多い。参加者の一人の4歳のブンちゃんはショウリョウバッタをつかまえた。小型のアカガエルも泳いでいた。

フェンス沿いでは大きなコガネグモがお食事中。食べているのは糸でぐるぐる巻きにしたチョウだろうか？ナガコガネグモは湿地に多いが、コガネグモは陸にもいて、虫の多い良い環境の場所にしかいないと聞く。根木内は国道6号のすぐ横だが、良い環境なのだろう。



2本の黄色い縞模様が特徴のコガネグモ



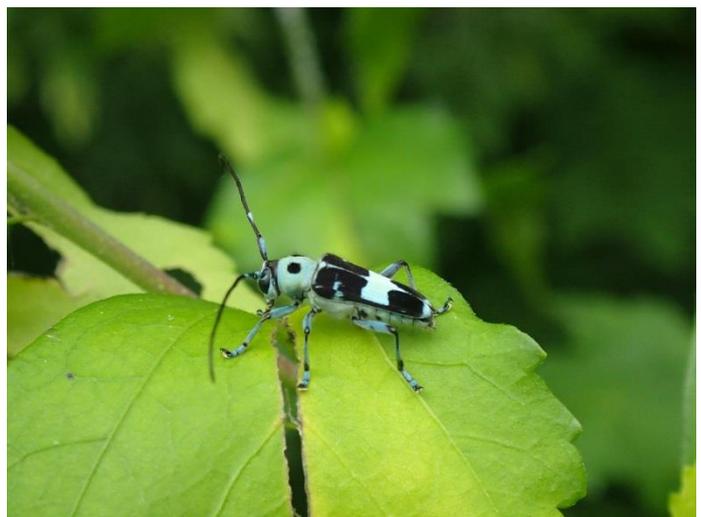
今年生まれ？ニホンアカガエル

田んぼの稲はしっかり育っており、その間を水草とアゼナがびっしり覆っている。田の草取りは大変だ。アゼナは葉に鋸歯はみられず、アメリカアゼナではないだろう。

コブナグサ、イボクサ、タコノアシ、アキノノゲシ（いずれも葉）ミコシガヤ、アゼナルコ、クサヨシ、ハマスゲ、クサイ、イ、コゴメイ、ヒメガマ、オカトラノオ。ヒメガマは穂になる部分の上にオバナがついていた。トキワハゼの花とムラサキサギゴケがならんでいたの両者のちがいがよくわかった。けれどもまた別の場所で見るとどちらかと迷うのだろうか。

ヤマトシジミ、ベニシジミ、オオシオカラ、シオカラ、ノシメトンボ、ナガサキアゲハ、カノコガなど。

広場のムクゲで昨年見た虫を捜す。ラミーカミキリだ。今年はいないのかなと思っていたら、いたいた。今年もブルーのきれいな色をしたラミー君。すぐにとんでいってしまったけれど。この外来の虫はいったいどこからやってきたのだろうか。



ラミーカミキリを発見

キリはたくさん実をつけていた。エゴの木も実、そしてバナナの様になったムシゴブも発見。中を見ると羽のある小さな黒い虫がうようよいた。この虫はエゴノネコアシアブラムシというようで、初夏にエゴノキの実から出てイネ科のアシボソまで飛んでいき、秋にまたエゴノキに戻ってくるという生活を送っているらしい。この虫と春にみられるオトシブミの虫との関係はどうなのかしら？というところで雨が降り出し、今日の観察会はおしまいにした。



普通は丸いエゴの実



エゴノネコアシアブラムシの虫こぶ

7月の湿地の観察会は、、、

7月28日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）